

とんからりん

サカタ二友の会ニュース

京の五月は 祭り月

京都は一定の地区ごとに氏神様が有る。その神社のお祭りが有る。稲荷・松尾などの大きな地域を抱える神社はお出で祭り、お帰りの祭りと前後に区分けされる。稲荷祭りは前日は卯の日・後は午の日らしい。称して「うかつ」と出て「うま」と帰ると子供の頃聞いた。私の通った小学校その学校の氏神は、京都女子学園の近くの、新日吉神社。祭りは5月15日は休校日。翌日は葵祭り。京都市の全学校は休校で二日続きで、友達等は、お正月の様に喜んで、が、私は大変な日。祖母が持えた、鯖寿司と赤飯を市内の親戚に、自転車で行ける役目が有って残念ながら、夕方まで遊べなかった。



新日吉神社の
イマヒエンジャ
葵祭り牛車※
橋門



葵祭は、賀茂御祖神社と賀茂別雷神社の例祭で、古くは賀茂祭。平安中期の貴族の間では、祭り」と言え

敗戦を機に労組勢力が拡大、色々な分野で労働組合が出来て、労働争議が多発した。昭和21(1946)5月19日、皇居前広場で25万人による今では考えられない「米奇(せー)ー」がスローガンの食料メーデーがあった。そして翌22年(1947)2月1日の実

今、豊かさは、70年の平和の賜物。戦後の飢餓は戦争の結果責任だろう。戦争を身をもつて知っている世

代は、**又か！**と顔を曇められても、当時の事を伝えよう。それが子孫への最大の相続財産だと思ふ。

今、豊かさは、70年の平和の賜物。戦後の飢餓は戦争の結果責任だろう。戦争を身をもつて知っている世

葵祭は、賀茂御祖神社と賀茂別雷神社の例祭で、古くは賀茂祭。平安中期の貴族の間では、祭り」と言え

敗戦を機に労組勢力が拡大、色々な分野で労働組合が出来て、労働争議が多発した。昭和21(1946)5月19日、皇居前広場で25万人による今では考えられない「米奇(せー)ー」がスローガンの食料メーデーがあった。そして翌22年(1947)2月1日の実

今、豊かさは、70年の平和の賜物。戦後の飢餓は戦争の結果責任だろう。戦争を身をもつて知っている世

代は、**又か！**と顔を曇められても、当時の事を伝えよう。それが子孫への最大の相続財産だと思ふ。

今、豊かさは、70年の平和の賜物。戦後の飢餓は戦争の結果責任だろう。戦争を身をもつて知っている世



時代祭は明治28(1895)平安遷都1000年を記念して、平安神宮が創建され、神宮の管理と保存のための市民組織として平安講社が作られ、その記念事業として、京に広がる時代を目で見る絵巻風の祭りが始められた。時代祭10月22日？

第3日曜開催日4月19日(定例:朝9時~)

第123回**朝粥**食べておシャベリ会

ご講演・杉村紳聖様: 報告者高木英智様

発行者 株式会社 サカタニ
集四案サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・東山区七条七条
TEL・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
Eメール info@sosake.jp
毎月発行の
会員新聞です
編集・酒谷義郎
yosirou@sosake.jp

朝粥食べて
おシャベリ会
恒例・食前のお話
お話し・杉村紳聖様
お話し・経系の会



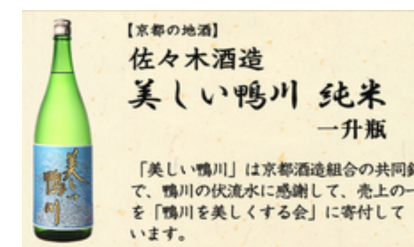
今日の講師は絹の道一筋50年、そのままだ時代劇に出られそうなお話と髪型が素敵な「経系(たてい)の会」を運営されている杉村紳聖様。なぜ「経系」なのか。西陣織の美しい模様は、何千本もの「経糸」に「緯糸(よこいと)」が編みあつて初めて浮き上がってくるもの。最初は経糸だけ。緯糸がいろいろな模様にしていくのを、経糸が縁の下で力持ちで支えているのだそうです。互いに支え合つて、経糸と緯糸のどちらが離れても織物は完成しないこと、思いをはせて名付けられた経糸の会。「障がい者」という言葉はひどい言葉、ハンディキャップパースンであつて、邪魔者ではない、「優者」である。憂い、悲し

みの方で、一人一人倍苦勞をしていて、いろいろな人がいる、どうやって生きていくのか、よくとだけフオローする。それができれば助け合ふ。優しさが生まれる。日本は裕福になつて失つたものも大きい。ハンディのある人もない人もみんなおなじ」と、ハンディのない人たちが共に生きる喜びを分かち合うことを目指し、「ヒューマンふれあいコンサート」を立ち上げ、ここに集う人たちは信条、人種、地位身分、障がいのあるなしなどには一切関係ない輝く絹糸のような一本の糸になつたとおっしゃる杉村さんは今年70歳にはせんせん見えな

今年第15回
ヒューマンふれあい
コンサート

重復や転居が判らない。年に一、二度しか来店されず、お顔も覚えられず。郵便が、山の様に返ってくる。コラ・カン！
▽それで「1年1200円年会費」を戴く形に。でも、京都には、お返し」の習慣が有り、それに従つてツツツ。心もち、お返しは多い。(年)

鴨川を美しくする会を応援するに



1.8L・2044円
720・mL1049円
300mL・409円
佐々木酒造の現社長は、俳優の佐々木蔵之介さんの弟さんです。

京都洛中で蔵は二つ、その一つが上京区佐酒々木酒造さん。

京都洛中で蔵は二つ、その一つが上京区佐酒々木酒造さん。

どんつき

このおんからりん

今年(2015)はサカタニ友の会「会員様年会費」に作成し配布させて戴いております。

毎年3月末に次の年度分会費を戴き更新ですが、お忙しいのか4月は激減します。今年は例年よりはチョツとランですが、

▽よく、商売人の会なら、普通はタダ無料やでと言われます。当初は、会費無料」でスタートしました。失敗でした。

▽重復や転居が判らない。年に一、二度しか来店されず、お顔も覚えられず。郵便が、山の様に返ってくる。コラ・カン！

▽それで「1年1200円年会費」を戴く形に。でも、京都には、お返し」の習慣が有り、それに従つてツツツ。心もち、お返しは多い。(年)

▽我社の一番主要な業務は「マイ・上に三ツのスペースがある。そこをイベントや展覧会、教室

▽日本に何万もの「コンビニ」があるが、こんなアホワなことをしている「店」は多分ないと思う。でも、でも、儲けは大きい。

▽人との繋がり、喜んでいられるお顔等などは最大の儲け、

▽「二」の合併話があるが、我社は、今の場所だけ！。でんからりん」欄上の文字は変えない。

▽等と粋がついているが、会員証更新の時期で、友の会会員さんが激減(毎年)に事だが。未更新のお方はお早く。更新済みの会はお友達、知り合い」を友の会に入会をお誘いしつくりや。

ヨシちゃん ひとりごと



商いと人情②

先月は、アサヒ・サ

ントリー」さんを書いたが、今回は「酒谷本店」(個人経営酒問屋)が破産寸前状況(昭29)のその話

当時、私は、店は継がないと決め、家を飛出し、大学も除籍され、前年8月15日(夜・早朝)の南山城大水害被害地、井手町の木津川堤防の小屋に住み着き、昼は民家の復旧、夜は、こそこそと政治的な活動していた。そこへ、わが店の店員U君が、父が一度相談が有るから帰つていとの言っているのを伝えた。取りあへず帰り、聞くと「店が大変だ」と言う。帳簿をみると「借入金」が多く、資金繰りが厳しい。が、不動産まで入ると「資産」の方が多いので、酒問屋を整理をしてもう一度「酒小売り」にしたらと言った。が、父は、酒問屋業を続けたかったので、一旦、休業して内整理をし「借入金」の処理を含め仕入先と相談すればと言った。

(当時は酒卸免許は貴重だった)

父は債務額の一歩多い、朝日麦酒株(京都支店長渡谷謙二氏に相談し店は休業し、(昭29.2.22)債権者会議が開かれた。在庫商品は一旦、仕入先に返品。店員は、全員解雇し、倉庫は空っぽ、訪ねて来る人もない。親戚も「あんた」が潰れて恥かしいと近寄らない日々が続いた。

そんなガラーンとした店に、お二人の酒小売屋さんが、来店下さった。伏見区の、〇さん。伏山は出来な

いが、無利子・無期限でお金をお貸ししよう。もう一人は祖父も親しくしていた南区のTさん。(80歳を越えるお婆さん) 酒谷さん、ワテ(私)は、年寄やさかいこれだけしかい。返さなくても、王さかい、お使いしなはれと、ご持参の信玄袋から千円札束を5個お出しになった。(万札も無く大学の月謝が1600円時代)

父は、厚意だけ頂戴し、援助はお断りした。その二商家は、今は酒屋を廃業されてるが、私もその場に居て涙が出るほど有り難いと思ったので、今も偶にお二人様の方のお家の前を通る時、その場面を思い出し、いつも頭を下げる。

その一方で、力を入れて販売していた蔵元が、私共が納入していたお店を即、別の酒問屋に振り代えた。その蔵元は少額の仕入代金はあつたが、迷惑が掛からないように事前に全部支払を済ましてあつたのに……だ。

稲荷山 ぶらり散策記⑦ 越智薫史

外国人観光客の人気のスポット日本一に

伏見稲荷大社が選ばれて観光客が急増している。赤い鳥居をくぐりお山を歩く外人観光客でうたがえしている。人気の秘密は、美しく神秘的な場所というところにあるといわれている。当の伏見稲荷大社もこの人気を歓迎し喜んでる。

しかし私は喜んでばかりいられないような気がしてならない。

もともとお山と一体の伏見稲荷大社は、稲荷信仰に支えられ



社は、稲荷信仰に支えられ

花は景に 石動敬子



桜も御衣黄などごく一部を残して散り敷き、土にかえり、葉桜の陰の桜の実がちらほら。過ぎてゆくものを惜しむ気持ち

花繚乱の春は、日々美しい命の躍動が目の前に展開する。

このスピードというか、変化についていけず、うつむいてしまうと、五月病が待っている。予兆があるとするれば、「そんな才能はない」というやつだろう。才能を時間や経済力と置き換えてもいい。言い分けをし始めるとどんどんはまってしまふから厄介だ。余り考えないほうがいい、とは私のやり方で、どうなりたいか、のイメージだけで、走り出してみる。動き出して初めて見えてくるものがありそうだから。

百聞は一見に如かず、現場に立つてこそ感性は刷新される。その感性が良い出会いにつながる、直感

てきた長い歴史がある。

お山めぐりをしながら、人間も自然の一部であることを自覚し、いのちの循環を体感する。そして山の持つ力を感じ畏敬の念を持たざるを得ないという、由岳信仰にも通じる考え方である。長い歴史の中での信仰によって全国に散らばる信者を獲得してきたのである。稲荷信仰は、由岳信仰の一種であると思ふ。

お山に散らばる十数軒の茶店はほとんどがその昔は旅館業も営んでいた。全国から講を組んで訪れる信者を受け入れていたのだ。

私が良く甘酒を飲みに行く末富亭も30年ほど前までは旅館業をやっていたという。表の間には、其の頃毎

を鍛えてくれるから、例えば、選挙で誰を選ぶか、迷うこともない。ぼおーっとするのでもいい、と聞く。精神的瀟灑(ろか)作用とでもいうか。目の前の課題からすこし離れてほぐれると取捨選択が上手く出来たりする。急用が重なってやってくることも多い日常だが、優先順位が上手くつけられたりする。と、春愁も五月病にも無縁のつもりだったのに。一つこけるとみなこけるのか。家の鍵をなくした。途端に、総崩れ。何回となく痛い思いもしてきたのに、整理整頓のテクニク次第なのかしら。

でも、ものというなくしものはまだ代替品があつたりする。早速、スぺアキーを用意して何とか再建にとりかかる。記憶が薄れていけば痛みもきえていく。それを待ちながら、明るい方へハンドルを切ろうと思う。自分のことだけでも精一杯の現実だけど、何とか、つながり、つなげてこそ何かが始まる。そうなる予感があるし想定外の嬉しい何かが来たりする。

だから、歌おうと思う。失ったもののために。失われたもののために。

年来いたという横浜の生麦地域の講札(写真)が今も掲げられている。狭い二階に20人ほどが雑魚寝で泊まつていたそうだ。

観光客は急増しているが信者は増えていないのだ。由岳信仰と特別視するのは早計だと思う。

日本の国土の4分の3は山である。山を心の中の原風景として持ち続ける人も多くいる。日々の暮らしの中に山は溶け込んでいく。山は日本の思想や哲学、祭りや芸能など多彩な展開に大きな役割を果たしてきたといわれている。

結局、観光か信仰かということになるが、今後稲荷信仰の御客がどんどん増えるという事は考えられない。

めに。例えば、「子どもを守る歌」を。憲法集会のオープニングのステージで、大勢の一人として。「ぞうれつしや」以来の大人数で。うたう声も、既に失われつつあるもののひとつだ。発音だつて、スマホの音声検索を戸惑わせている。自分のことだけでもこんなに取り乱しがちなのに、世のため、人のためなどとてもとまだけれど、「方違(かたがた)が」え」というマブームでしのごうと思う。第二句集「逢隈(あふくま)」の出版も、阿武隈川流域を思い、原発で人が住めなくなった大熊(おおくま)町や、阿武隈高原を思いやるのも、京都や神戸、果ては次女の家族のニューヨークを思うのも根は一つ、過ぎつつある、失うものが目に見えているいまの私そのものだ。

才能も、時間も経済力もないけれど自由な時間が少しはある。それで、この6月には、また故郷宮城、福島へ学校、施設訪問に出かけ、歌ったり視察や観光、大人たちの修学旅行に出かけることにしている。

ない。

しかし、職場の人間関係で悩む若いサラリーマンがお山に登り、すがすがしい気持ちになり、明日から元気に仕事に行きますと茶店で話していたという。デママーク人が毎年お山めぐりに来るという。お山をめぐるいのちの循環を体感し、生きる力を養うことができるのだ。あの千本鳥居以上に人気があり、観光客があたりに殺到しているが、あのスポットだけを売りにしたのでは長続きしないだろう。四つ辻まで行って引き返すのではなく、一ノ峰まで上つてお山を一周してこそ、お稲荷さんの魅力が満喫できることをもって宣伝する必要がある。

京都&東山
ぶらりピカリ
60

七条通③

七条大橋を西に渡ると南側に「松明神社」がある。



伏見稲荷大社の境外末社で田中社ともいう。現在は、天智天皇木像大友皇子(木像)を安置。村上天皇天曆2年(948)創始、同10年(956)勅して「療祭(れいさい)が行われ、そのとき「炬火殿(たいまつでん)の号を賜ったことに由来する。元は他所に有ったが、宝永8年(1711)現在の地に遷ったと伝えられている。

伏見稲荷大社の稲荷祭の際には、例年この松明殿稲荷の氏子が、七条河原において松明を照らして、伏見稲荷大社の神輿を迎えていたところから「松明殿(俗名タイマテン)の名で広く親しまれている。

そこから西へ「高瀬川」を小橋で渡り、七条通りは河原町通と交わる。マダ、市電が走っていたころ停留場があったが名前は、河原町七条でなく「内浜」であったと記憶する。その内浜の由来は、豊臣時代に遡る。慶長15(1610)、方広寺大仏殿の再建時、角倉了以・素庵父子は、鴨川を利用して資材運搬。後、慶長19(1614)に、京都・伏見間の恒久的な運河「高瀬川」を開削した。その川の情景は、森



↑都七条米浜郵便局には残っている。他は、知らない。



↑内浜診療所と下京区三ノ宮町通正面下る上三之宮町の「京

鴉外が『高瀬舟』で表している様に、水深は(今も)数10m程度と浅く、物流には底が平らで喫水の低い高瀬舟と呼ばれる小舟が用いられた。一条から七条にかけては、荷物の上げ下ろしや船の方向転換をするための「船入」が高瀬川から西側に直角に突き出すように作られていた。現在は、木屋町二条下の、一之船入(史城情跡指定)を除き、全て埋め立てられ、高瀬川の七条に有った「内浜」(うちはまの)名の船溜まりも無くなった。(場所)は現在の七条河原町を中心とした七条通の北東側)その船溜まり設置は、慶安元年(1646)から、枳殻邸(湊成園)の建設などに合わせて、御土居の付け替え、高瀬川の流路の変更とともに行われた。内浜の名は御土居の内側に位置したこと由来する様だ。川沿いには、曳子(舟曳き人)が高瀬舟を人力で曳いて歩くための曳舟道が設けられた。正面通り近くには「米の取引場」が有りその辺りを「米浜(よねはま)」と呼んでいたという。今は地名でその名を使う人は殆どない。僅かに七条河原町交差点の東北角にある京都南病院グループの

市電が走った
京都を巡る
50

千本丸太町

丸太町智恵光院を出た丸太町線

の市電は、西へ向かいます。ビルとビル間に、低い商家・民家が並び続きます。先号でも紹介しましたが、丸太町通の南側は、昭和二年まで京都刑務所のあったところ、移転後に民有地となり、整然と区画された宅地となりました。

NHK京都放送局は、その一面にあり、先ごろ丸太町池に移転するまで、ひととき高いアンテナ塔が付近の目印にもなっていました。金融機関などの建物が車窓に見えてくると、まもなく「千本丸太町」に到着します。

交差点東南角に大和銀行支店がありましたが、あとの三カ所の角地は二階建ての商家・民家があるだけで、あまり印象に残らない交差点でした。ここでは昭和四



千本丸太町に着いた市電

十七年まで千本線と交差ししていた。市電の系統は、いずれも直進する系統ばかりで、この交差点で曲がる系統はありません。ただ、当時、丸太町線東寄りから千本線南寄りへ接続するポイントがありました。営業用には使用されていませんでしたが、丸太町線・錦林車庫方面から千本線・壬生車庫方面へ、またはその逆の回送・入庫用として、日常的に使用されていました。

丸太町通から千本通を少し北へ行くと、西側に小さな児童公園が見えてきます。不似合いなほどの大きな石碑があり「大極殿遺跡」の文字が見えます。この付近は、平安京の中心軸、朱雀大路の突き当たり位置し、平安京における宮城である大内裏があったところ、その中であつた大極殿がこの付近に建っていました。大極殿は天皇の即位など朝廷の儀式が行われた朝堂院の正殿で、壮麗を極めた建物と言われます。石碑は、明治二十八年に平安遷都千百年を記念して建てられました。

大内裏には朝堂院、豊楽院、それに天皇の居住する内裏があり、周囲に宮殿・官庁が並んでいました。大内裏の範囲は、現在で言えば、北は一条通、南は二条通、東は大宮通、西は御前通、東西一・一キロ、南北一・五キロもあつたと言われ、現在の京都御苑より一回り大きな規模でした。政変や失火でたびたび焼失し、平安末期頃から再建されず、安貞元年(千二百一十七年)には大内裏のほとん



千本丸太町交差点を西へ、円町へ向かう市電

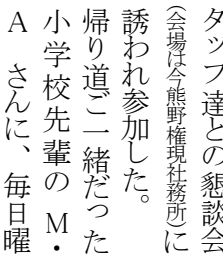


写真、「毎日新聞記事」でこの欄福田静二様のご本紹介の記事です。

第一百一話

て少しギスギスした感しから逃れようと祖母の住む「吉田」の家に移った。晩年は真面目に、山科で弟と商売に励んだ父（63才）、中年時代は女性問題で家の中は波乱続き、私はその中で七条の店から高校へ大学に通った。

その頃、幼な友達から、映画「雲流れる果てに」(特攻隊で死んだ青年を主題)監督・家城巳代治・鶴田浩二」のス



日に新聞を読んで感想を話し合う会が「民家の応接間」であると誘われ参加した。終わる前口シア民謡などを歌い楽しい会。人数が増え東山診療所の一階に場所が移り、社会科学を系統的に勉強する「日

曜会 になった。

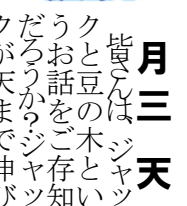
これは、夜だけのこと。昼は学校から帰ると、酒問屋の手伝い、オート三輪で灘の酒蔵へ行き酒を仕入れ持ち帰る仕事や酒小売店へ配達集金もしていた。父は月4千円呉れたが3千円は食費だと言つて差し引かれた。自分は当時木屋町仏光寺に有つた「おそめ」（超高級バー）へ行つていたのに。

大学生だ小使い値上げでと言つたら「バイト先に、何んと京都市外郭団体「公開経営指導協会」。

勤務時間は、市職員と同じ。試験を受けた後、ただ休めるという。これは大学を辞めよと言うことかと思つたが、違つた。仕事は、市の指定の公認会計士さんと同行して、経営や融資相談・指導する役目。半年である事情で辞した。が、後に貴重な事になったと思える。

※・公開経営指導協会・18歳63年前、バイト？してたから、今は？とネット調べた。
全国各都道府県・都市に、当時と同じような仕事をされてました。京都市の場合
は産業局傘下、多も役所絡み。通常なら相当著名な公認会計士が指導なさっており民間が払う「会費」ではとてもソロロパンが合わない仕事」。お上手にお使いになれば、よいのかなあ。です。色々なタイプの経営者・堅実な方が多く半年の実地経験だが、「給金付」で学べた。

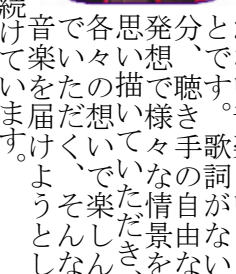
鳥がみた豆の木元



の恐ろしい人食い巨人の住処に、忍び込む。まずは金の卵を産み、鶏と一緒に、金と銀が入った袋とハーブを奪った。ハーブを奪う時、ハーブが喋ってしまい寝ていた巨人が目覚まして追つかけて豆の木を降りてくるのだ。が、ジャックが豆の木を切り倒したため、巨人は転落死してしまっ
うお話を。
さて、この一部始終を見てはいられず、しかし目を隠せなかつ

BELIEVIN
緋緋史子

FumikoKousetu



しかし、近年の音楽市場は、**セロ**に代表されるように、ポツポツでキャッチーで、一緒に歌える「歌」のある楽曲が流行る傾向にあります。フラリパッドが作るような歌のない音楽は、**田舎**として聞き流されるばかりで決して一線を越えることはありません。高速情報社会の現代においては、言葉がない音楽では

た傍觀者の鳥は、どんな心境だったのだろうか？想像してみよう。まずは、何だかわからない豆の木がぐんぐん空路を無視して伸びてくる。それは非常に太くてはいけなくなつた。たまに向こう側から来る鳥と正面衝突しそうになるから交通被害は絶大なもので、鳥達の間でもブーイングの嵐だっただろう。

次に、地上から小さな男の子が登つて来るではないか。雲を貫くその幹を人間の体で登つてくるものだから、息も絶え絶えだ。心配している最中、男の子は呟いた。「まさか、こんなに大きな豆の木になるとは」。この呟きは瞬く間に広まり、鳥達へ平然と飛んでいくように見えて「犯人はこいつか！」と囁く声が宙をさざめいていたことだ。

人の心に留まるメッセージを伝えることが難しいからなのでしよう。

音楽を生業にしているフラリーパッドにとつて、この市場傾向は大きな壁です。どんなに良い曲を作っても、たくさんの人々の心に届かなければ、成功を得ることができません。そうだと云つて彼らは、売れるためだけに歌曲を作つたり、演奏したりする気もありません。自分たちの作りたい音楽と世間のニーズとの狭間に追いつ込まれ、彼らが心折れそうになったことが何度あつたことか。

そんなフラリーパッドの元に、この春、思いもかけない話が舞い込んで来ました。この月からスタートしたBS-BSの番組のテーマ曲として、フラリーパッドの曲が使われることになったのです。突然の話に一番驚いたのは本人達でしたが、湘南を紹介するこの番組のために、海の香りがたつぷりする曲を書き下ろし

ろ。う。た。だ。こ。こ。で、男の子に危害を加えない器の大きさを評価したい。

最後に、空の上に住んでいるはずの巨人が、見るからに重量オバーな巨漢を豆の木に絡まして、いる姿には、飛ぶのを止めて目を覆いたくなつたことだろ。う。ジャックが豆の木を倒すまでもなく、勝手に折れて転落死したに違いない。周囲を飛んでいた鳥達は、巨人の背中側は決して飛ばないという賢明な判断をし、一羽も巻き込まれることは無かつたそう。

こうして、鳥にとつて目出度し目出度しな物語となつたのだ。が、鳥からすると、誰が悪いとか何が悪いとか言う前に、とて小滑稽で馬鹿馬鹿しく、惨めでも小さな人間の姿であつたことに違いない。(おわり)

編集後記

ました。湘南のビーチの映像とともに流れるフラリーパッドの音楽。放送を見て、歌詞がないからこそ選ばれたのだ、と私達は実感したのでした。

世の風潮に流されず、「歌のない」音楽を作り続けるフラリーパッドに、今、新しい風が吹き始めました。この風を追い風に、彼らはこれからも自分たちの信じる道をまっすぐに歩み続けることでしょう。

前に使った鉄を探す。病院の検診を忘れスボかますこの頃、▼チョツと(大分ボケてきたかなあ。と思う。その癖に、昔の事はよく覚え、特に食べ物飲物の味は忘れない。それで毎朝、ヘアブラシで頭を叩く。

▽効き目の有るなしでなく、乾布摩擦も体操も毎朝、3階までの建物はエレベーターを使わない。お陰で過、風邪を引かない。

▼もう15年以上続けているぞんからりん」もすが、勢いで書きだすが、あれ、前に書いたのかなあと調べると二度書きが再々。▽優しい読者ばかりで、ご指摘はなさらない。否、お読みになつていないのだろう。と思つたりしている今日である。

▼最近、分野と持ち味の方々のご投稿が増えた。その上校正もしてくださる方が有り有り難いこと。お力をお借りして、何とかボケ防止して続けよう。

▽だが、残念ながら来月から読者が激減する。友の会会員の更新をされないお方が有つて」。無理は申しませんが、更新と友達を誘つて再入会してや!」